



投稿ください 市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄せてください。採用文には薄謝を差し上げます。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一三五 白根市役所企画財政課広報広聴係です。

老人の生きがい

自分に合った趣味で毎日を楽しく

斉藤青九郎さん (引越・農業・69歳)

私は今から十五年前に、ある人に進められて五葉松の苗木を植え込みました。その目的は、年をとって若い者に田畑のすべをまかせ、自分の仕事が無くなったとき、今から松でも植えておけば、年々育てながら、小遣いも取れると思ったからです。最初の年に長さ七間の畝五本に植えたのが、三年後には三アールも畑がふさがってしまいました。それで、十月の秋も終わりに近づいたころに小鉢に植え込み、年に二百本から三百本と売り始めました。その当時は、松を植えていた人もあまりなくて、かなりの価格で売れました。しかし最近では、どこでも植え込まれるようになり、木の形、枝の作り方が出来ていないと買ってくれない人がいるので、盆栽師からいろいろ作り方を聞いたり見せても

竣工成った生活センターに学んで 地区民挙げて余すことなく活用

金子チヨさん (新飯田古町・無職・64歳)

地域生活センター竣工の喜びのうちに、はや八か月が過ぎようとしています。各種団体に、またグループ別に昼夜余すことなく集い合っています。その一つ、婦人学級の誕生。これも市当局の援助で、毎月充実した学習がなされています。また、保健会では料理実習、グループ活動にお茶、踊り、墨



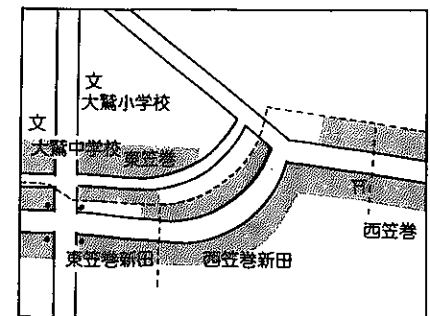
ぼくたちの部落では、毎年九月二日に祭りがあります。その祭りとは他の部落にはない、みこしをかつぐ祭りです。みこしをかつぐのは、一年生から六年生までで、中には



大鷲小学校6年 近藤正紀君

ぼくたちの部落・町内会

西笠巻新田



保育園の子供もいます。保育園から一年生ぐらいまでは、みこしについている、なわを持つてついでにきます。みこしをかつぐ前、部落のいちばん下手の所でおはらいをし、それから四組に分かれ一けん一けん回るわけです。そして、奉納金をもらい、後から大人の人が大きなうちわであおぎ、ぼくたちはみこしをゆすりながら「わっしょい」とかけ声をかけます。全部終わると、最後に農協で景品をもらってから解散して終わりです。とても楽しい行事です。世帯数 八三世帯 人口 四五六人(男二一五人 女二四一人) (十二月一日現在)

保育園児がおじさんを訪問

「おじさん、お仕事いつもありがとうございます」と、このほど大鷲保育園の園児が、駐在所や農協などで働く人を訪問しました。これは、園児たちいろいろな職業の人がいることを教えたいと行ったものです。園児たちは、この日のために作っておいた花を贈り、日ごろみんなのために働いてくれることへの感謝を表しました。



今年も農業青年が保育園でもちつき



十二月八日、農業青年サークルのメンバーが古川保育園を訪れ、もちつき大会を開きました。「ソーレ、ソーレ」の大声援を受けながら、サークルのお兄さんと園児たちが一緒にキネを振りおろし、とても楽しそう。つきたてのモチは、雑煮やあんこもちなどにつくられ、みんなとてもおいしそうに食べていました。

「お店やごっこ」で親子のふれあい



十二月五日、白蓮保育園で「お店やごっこ」が行われ、この日は園内に「おもちゃ店」「ほうせき店」やいろいろな食べ物のお店が立ち並びました。これらは、どれでも一つ、紙で作った百円玉で買えますが、なかでも綿アメが園児に好評でした。また、ふだん仕事で忙しいお母さんたちも、この日は子供と一緒に楽しい一日を過ごしました。

川柳



ダルマに目入れて祝の鏡割る
天寿まっとう静かに割れる哺乳瓶
戦争と平和を語るチャンチャンコ
天井裏ねずみに貸して生活向き

岡村 清
長井 徳市
中村 尚治
高橋祐四雄

表札の余白に嫁の名を入れる
老いの咽喉ふさぐ餅にもある殺意
スタイルを崩して母となる誇り
また餅を食べて行く先近くなり
鼻唄のリズムにのった毛糸玉
若い娘の凭れが軽い終電車
腹八分食べてめでたい初春の餅
巣立つ子へ母の荷造り重くなり
腹立ちば損と承知の小商人
大昔年の数ほど食べた餅

今井 七郎
後藤まさの
山岡 フミ
米野 光雄
織田 セツ
竹石 甚五
吉川 彰
田村 恒夫
佐藤トミノ
大井 義雄

俳句

撞木綱ためす僧の年用意
敬老の請団をして年の膳
半衿を替えて姑の冬仕度
野仏に北風寒く身にしみる

短歌
嫁ぐ娘の送り届けし晴衣に
身を装いて新春祝いたし

林 栄助
大藤 豊治
小林キミイ
玉木 長吉

中村 京